IBM Cognos Analytics
バージョン **11.0.0**

ご利用の手引き

IBM

©

製品情報

本書は IBM Cognos Analytics バージョン 11.0.0 を対象として作成されています。また、その後のリリースも対象となる場合があります。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： IBM Cognos Analytics
Version 11.0.0
Getting Started User Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

著作権

Licensed Materials - Property of IBM

© Copyright IBM Corp. 2015, 2018.

IBM、IBM ロゴ、および ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標または登録商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

以下は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

- Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは、Adobe Systems Incorporated の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft 製品のスクリーン・ショットは、Microsoft の許可を得て使用しています。

目次

第 1 章 Cognos Analytics の概要 1
サインイン 3
コンテンツの検索および検出 3
ナビゲーションのヒント 5
始めに ビデオ・チュートリアルとサンプル 6

第 2 章 アクセス権限 7
単純なアクセス権限と細分化されたアクセス権限 7
コンテンツに対する権限の設定 9
コンテンツに対する権限の表示 10
機能/フィーチャーに対する権限の表示 10

第 3 章 データのソース 11
データのアップロード 12
データ・セットの作成 13

第 4 章 レポート 17
レポートの表示と対話式操作 17
レポート・ビューを使用したレポートのバリエーションの実行 19
レポートのバージョン 19
レポートへの登録 20

第 5 章 ダッシュボードとストーリー 21

第 6 章 コンテンツの管理 23
エントリーのコピーまたは移動 23
エントリーの非表示 24
コンテンツの共有と埋め込み 24
埋め込みコンテンツを含む認証サンプル 25
Cognos Analytics コンテンツを表示および実行するためのカスタム URL の作成 26
`promptParameters` オプション構文 28
他のサイトを指す URL の作成 30
エントリーのプロパティーの設定 30

第 7 章 スケジュールの管理 33
エントリーのスケジューリング 33
ジョブを使用して複数のエントリーをスケジュールする 34

第 8 章 個人設定 39
通知 39
自分のスケジュールと登録 39
個人用設定 40
言語の設定 40
UI のヒントをオンにする 40
レポート実行のデフォルト形式の設定 40
資格情報 41
ログ記録レベルの設定 42

第 9 章 その他の Cognos 製品との統合 45
IBM Cognos Software Development Kit 46

Cognos BI から Cognos Analytics への機能マッピング 46
旧型式から標準モードの HTML への移行 48
コンパニオン・アプリケーションを開く 48

付録. 本ガイドについて 51

索引 53

第 1 章 Cognos Analytics の概要

IBM® Cognos® Analytics は、組織のデータを理解してビジネス上の意思決定を効果的に行えるように、レポート作成、モデリング、分析、ダッシュボード、ストーリー、イベント管理を統合したものです。

ソフトウェアがインストールされて設定されたら、管理者がセキュリティーをセットアップし、データ・ソースを管理します。自分でローカル・ファイルをアップロードし、ダッシュボードまたはストーリーで視覚化を適用して、使用を開始することができます。エンタープライズ・レベルのデータの場合、ワークフロー上は次はモデル作成者の出番です。データ・モジュールとパッケージが使用可能になったら、レポート作成者がビジネス・ユーザーとアナリストのためにレポートを作成できます。管理者は継続的にシステムを管理します。

アナリスト、レポート作成者、データ・モデル作成者、管理者の誰であろうと、まずは、デスクトップまたはモバイル・デバイスから「ようこそ」ポータルにサインインします。どこに何があるのか分かりやすくするために、ユーザー・インターフェースにはコーチ・マークがあります。

ビデオ、概要資料、専門家のブログ、イベントなどへのリンクについては、IBM Cognos Analytics コミュニティー (www.ibm.com/communities/analytics/cognos-analytics/) にアクセスしてください。

ビデオ・チュートリアルおよびサンプル・データから開始する場合は、 6 ページの『始めに ビデオ・チュートリアルとサンプル』を参照してください。

行う作業によって、異なるユーザー・インターフェース領域を使用します。 IBM Cognos Analytics の機能によってさまざまなインターフェース領域へのアクセスが制御され、作業で使用するインターフェースのみが表示されます。

「ようこそ」ポータル

「チーム・コンテンツ」、「個人用コンテンツ」、または「最近使ったファイル」リストでコンテンツを検索する、レポート、ダッシュボード、ストーリーなどのアイテムを開く、ファイルをアップロードする、通知を確認する、基本設定とホーム・ページを設定する、スケジュールと登録を確認するなどの操作を行います。

レポートなどのエントリーを削除、コピー、移動、編集、または実行します。

レポート作成コンポーネントを開かずに、レポートのレポート・ビューを作成します。

レポート、ダッシュボード、ストーリー、またはデータ・モジュールへのショートカットを作成します。

アクセス権を設定します。

「新規」をタップすることにより、レポート、ダッシュボード、ストーリーなどの新規コンテンツの作成を開始します。

レポート作成

さまざまなプロフェッショナル・レポートを作成、編集します。テンプレートを使用するか、プロンプト、バースト、高度なグラフおよび視覚化によってレポートをカスタマイズします。

「チーム・コンテンツ」または「個人用コンテンツ」から既存のレポートを開くか、 「新規」をタップしてから「レポート」をタップすることにより、Cognos Analytics ポータルから IBM Cognos Analytics - Reporting ユーザー・インターフェースに入ります。

詳しくは、「Cognos Analytics Reporting ガイド」を参照してください。

ダッシュボードとストーリー

データの洞察と分析をダッシュボードまたはストーリーで表示、モニター、通信します。グラフ、図形、プロット、表、マップのようなデータの視覚的表現などの視覚化を含むビューを作成できます。 Web ページなどのコンテンツを使用してダッシュボードおよびストーリーを充実させることができます。

「チーム・コンテンツ」または「個人用コンテンツ」から既存のダッシュボードを開くか、 「新規」をタップしてから「ダッシュボード」または「ストーリー」をタップすることにより、Cognos Analytics ポータルから IBM Cognos Analytics ダッシュボードまたはストーリーのユーザー・インターフェースに入ります。

詳しくは、Cognos Analytics Dashboards and Stories User Guide を参照してください。

データ・モデリング

モデル作成者と管理者は、データ・モジュールとパッケージを作成し、レポート、ダッシュボード、ストーリーでユーザーが使用できるようにします。IBM Cognos Analytics Web モデリング・ツールを使用することにより、データ・サーバー、アップロードされたファイル、以前に保存されたデータ・モジュールなどのさまざまなソースから、データ・モジュールを素早く作成できます。このツールは目的主導型であり、定義されたキーワードを使用して基本モジュールを生成します。

「チーム・コンテンツ」または「個人用コンテンツ」から既存のデータ・モジュールを開くか、 「新規」をタップしてから「データ・モジュール **(Data module)**」をタップすることにより、Cognos Analytics ポータルから IBM Cognos Analytics Web モデリング・ユーザー・インターフェースに入ります。

詳しくは、「Cognos Analytics Data Modeling Guide」を参照してください。

管理

アカウント (ユーザー、グループ、役割)、スケジュール、データ・サーバー接続を作成、管理します。構成タスクを実行し、製品体験とユーザー・インターフェースをカスタマイズします。

「管理」をタップしてから、「データ・サーバー接続」や「構成」など、さまざまな管理領域を表すタブを選択することによって、Cognos Analytics ポータルから IBM Cognos Analytics 管理ユーザー・インターフェースに

入ります。他のオプションを使用するために既存の管理ツールにアクセスするには、「管理コンソール」をタップします。

「管理」インターフェースで行った変更も「管理コンソール」で行った変更も、両方のインターフェースに作用します。

詳しくは、「Cognos Analytics Managing Guide」および「Cognos Analytics 管理およびセキュリティー・ガイド 」を参照してください。

サインイン

IBM Cognos Analytics は、認証ユーザーと匿名ユーザーのアクセスをサポートしています。認証ユーザーとしてアプリケーションを使用するには、正常にサインインする必要があります。

サインインするには、組織の要求に応じて、ユーザー ID やパスワードなどの資格情報を入力する必要があります。匿名ユーザーはサインインしません。

Cognos Analytics 環境に複数のネームスペースが設定されている場合は、同じセッションの中で複数の異なるネームスペースにサインインできます。ネームスペースごとにそれぞれの資格情報が必要となります。

手順

1. ログオン・ページで、サインインするネームスペースを選択します。
2. ユーザー ID とパスワードを入力し、「サインイン」をタップします。 セッションが開始されます。
3. 同じセッションの中で別のネームスペースにサインインするには、アプリケーション・ツールバーの個人用メニュー ( ) から、「サインイン」を再度タップします。

次のタスク

セッションを終了するには、サインアウトします。セッションで複数のネームスペースを使用した場合でも、サインアウトするのは 1 回だけです。サインアウトするには、アプリケーション・ツールバーの個人用メニュー ( ) から、「サインアウト」をタップします。サインアウトせずに Web ブラウザーを閉じた場合も、セッションが終了します。

コンテンツの検索および検出

「個人用コンテンツ」や「チーム・コンテンツ」フォルダーを開く、または「最近使ったファイル」リストを調べることにより、 IBM Cognos Analytics のレポート、ダッシュボード、ストーリー、データ、ファイル、フォルダー、パッケージなどのアイテムを見つけることができます。しかし、「検索」を使用すると、アイテムを早く簡単に見つけることができます。

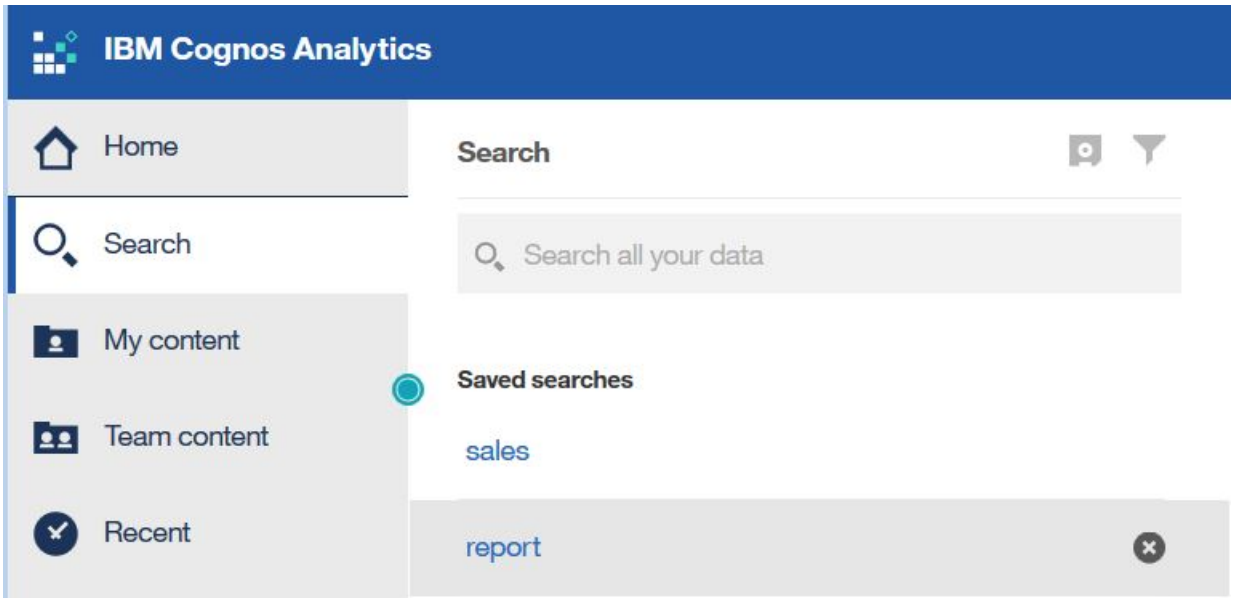


図 *1.* コンテンツの検索

アイテムを見つけるには、キーワードを入力して Enter キーをタップします。テーブルや列ラベルを含むテキスト、XML レポート仕様、URL 項目、ショートカット、テンプレート、その他を検索することもできます。検索ではアーカイブされたコンテンツに関する検索結果が返されませんが、いずれかのフォルダーにリストされたレポートからはそのコンテンツにアクセスできます。

フィルターによる検索の絞り込み

検索によって返された結果が多すぎる場合は、フィルター アイコンをタップしてから、目的のオプションを選択します。フィルター・オプションは最初に一度検索しないと使用できません。

検索を保存する

検索を実行して結果が一覧で示された後に、その検索を保存することができます。保存オプションは検索後でなければ使用できません。

「チーム・コンテンツ」

組織のコンテンツは、「チーム・コンテンツ」 フォルダーにあります。このフォルダーには、レポート、パッケージ、ダッシュボード、ストーリー、モデルなどがあります。「チーム・コンテンツ」内のアイテムはフォルダー別に整理されているので、キーワードを使用して検索すると探しているものが簡単に見つかります。

ヒント: 「チーム・コンテンツ」にリストされているアイテムには、検索中に見つかった同一のアイテムと比較すると、異なるメニュー・オプションがある場合があります。例えば、「チーム・コンテンツ」のレポートを右クリックすると「コピーまたは移動」オプションが表示されますが、このオプションは、検索中に見つかった同じレポートには使用できません。

個人用コンテンツ
このフォルダーは個人用領域であり、そこに保管されているコンテンツを見ることができるのはその個人ユーザーだけです。

レポートの出力バージョンとアーカイブ・バージョンの表示
リスト内のレポートの ··· をタップしてから、「バージョンの表示 **(View versions)**」 アイコンをタップします。

ナビゲーションのヒント

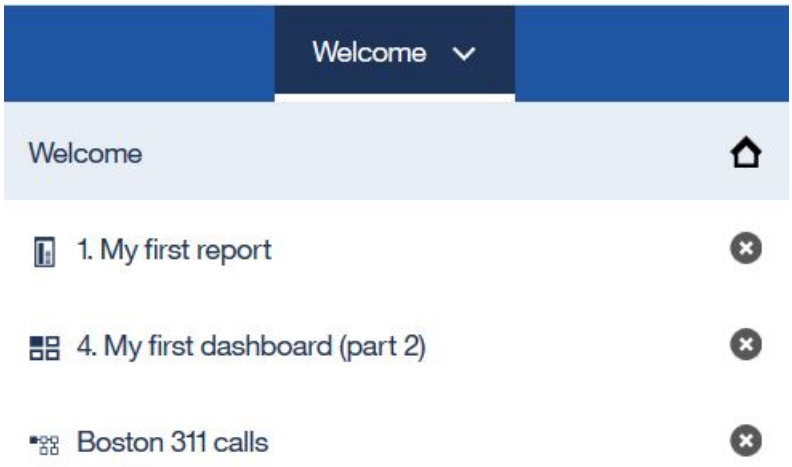
IBM Cognos Analytics ユーザー・インターフェースのあちこちをタップしてみると、いろいろな動作を知るのに役立ちます。理解が早まるように、ナビゲーションのヒントをここにいくつか示します。

「個人用コンテンツ」リストまたは「チーム・コンテンツ」リストからレポートを実行する
レポートの名前をタップするか、「実行 **(Run as)**」オプションのショートカット・メニュー ··· アイコンをタップします。

リスト内のエントリーを選択する
エントリーのアイコンをタップするか、エントリー名の横のスペースをタップします。

「個人用コンテンツ」または「チーム・コンテンツ」にフォルダーを追加する
「個人用コンテンツ」または「チーム・コンテンツ」を開き、ツールバーの新規フォルダー アイコンをタップします。

異なるビュー間をナビゲートする
フォルダー、レポート、ダッシュボードなど、複数のエントリーを開くことができます。アプリケーション・バーのウェルカム・メニューは、開いている異なるビュー間をナビゲートするのに便利です。



始めに ビデオ・チュートリアルとサンプル

IBM Cognos Analytics に付属しているサンプルを管理者がインストールして設定すれば、サンプル・データ、評価指標、およびレポート・テンプレートを試すことができます。

初心者ユーザーには、基本サンプルの一部として、サンプル (データを含む)、ビデオ、および文書化された手順が含まれる「始めに」チュートリアルが用意されているため、最初のレポート、アクティブ・レポート、ダッシュボード、およびストーリーを作成する際のガイドとして役立てられます。

これらの「始めに」サンプルやサンプル・データは、「始めに」フォルダーの「チーム・コンテンツ」にあります。「データ」フォルダーには、「始めに」チュートリアルと一緒に使用するためにアップロード、保存された Microsoft Excel ファイルが含まれます。「バージョン **11.0.x** の基本サンプル **(Version 11.0.x base samples)**」レポートは、これらのサンプルが含まれている IBM Cognos Analytics のバージョンに関する情報を通知するためだけに追加されます。このチュートリアルを完了するには、サンプルを開いて終了済み製品を確認してから、アイコン の横にあるリンクをクリックして、チュートリアル・ビデオを視聴します。(ダッシュボードのサンプルの場合、ビデオへのリンクは埋め込まれています)。

詳しくは、「IBM Cognos Analytics Samples Guide」を参照してください。

第 2 章 アクセス権限

組織のデータを保護するには、アクセス権限 (許可) を使用します。

管理者は、保護されている機能、フィーチャー、および組織のコンテンツでの作業に必要な機能と権限を持つグループや役割に、ユーザーを追加します。例えば、レポートの作成者には通常、レポート作成に関するアクセス権限が付与されますが、ユーザー・インターフェースの管理に関するアクセス権限は付与されません。レポート作成の役割を持つメンバーには、レポートに対する「書き込み」権限が付与されますが、販売グループのメンバーには、同じレポートに対する「実行」権限だけが付与される場合があります。

特定のレポートまたは他の項目に対して自分が持っている権限を確認するには、10 ページの『コンテンツに対する権限の表示』を参照してください。

あるアイテムに対する十分なアクセス権限がない場合、アイテムの所有者、またはより広範囲の権限を持つユーザーから、それらのユーザーの資格情報を使用できるように許可してもらうことができます。詳細については、41 ページの『資格情報の管理』を参照してください。

グループ、役割、および機能に対するユーザー・アクセスの管理について詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Managing Guide*」を参照してください。

単純なアクセス権限と細分化されたアクセス権限

アクセス権限 (許可) は、あるユーザーがどのアクションを実行できるか、あるいはどの機能やオブジェクトにアクセスできるかを具体的に決定します。

特定のユーザーに与えられる権限は、そのユーザーに対する権限と、ユーザーがメンバーとなっているグループや役割に対する権限との組み合わせです。ユーザーが複数のグループまたは役割のメンバーである場合、あるグループまたは役割に対する拒否権限が、別のグループまたは役割に対する付与権限よりも優先されます。

アイテムに関してユーザーに与えられる権限は、「読み取り」、「実行」、「書き込み」、および「すべて」です。これらの単純な権限は、アクセス制御のために管理者が使用する細分化された権限の組み合わせを表しています。

単純な権限と細分化された権限のマッピング

次に示す単純な権限には、より細かな権限の組み合わせが含まれています。

読み取り

より細かな権限「読み取り」および「通過 (トラバース、全探索)」が含まれています。

実行

より細かな権限「読み取り」、「実行」、および「通過」が含まれています。

書き込み

より細かな権限「読み取り」、「書き込み」、「実行」、および「通過」が含まれています。

すべて

より細かな権限「読み取り」、「書き込み」、「実行」、「通過」、および「ポリシー設定」が含まれています。

細分化された権限と許可されるアクション

基礎となる細分化された権限を以下にリストします。

読み取り

ある項目のすべてのプロパティー (レポート仕様およびレポート出力を含む) を表示する。

項目へのショートカットを作成する。

書き込み

ある項目のプロパティーを変更する。

項目を削除する。

コンテナー (パッケージ、フォルダーなど) の中に項目を作成する。

Reporting および Query Studio で作成されるレポート用のレポート仕様を変更する。

新しいレポート出力を作成する。

実行

項目を処理する。

レポート、エージェント、評価指標などの項目に対して、ユーザーが項目を実行できる。

データ・ソース、接続、およびサインオンの場合、データ・プロバイダーからデータを取得するためにエントリーを使用できる。ユーザーがデータベース情報を直接読み取ることはできません。レポート・サーバーがユーザーの代わりにデータベース情報にアクセスし、要求を処理します。 IBM Cognos ソフトウェアでは、ユーザーが項目を使用する前に、項目に対する実行権限を持っているかどうかが確認されます。

資格情報の場合、ユーザーは他のユーザーに対して自分の資格情報の使用を許可できる。「所有者として実行」レポート・オプションを使用するには、ユーザーがアカウントの実行権限を持っている必要があります。

ポリシー設定

ある項目のセキュリティー設定を読み取り、変更する。

通過　コンテナー項目 (パッケージやフォルダーなど) の内容を表示し、コンテナー自体の全般プロパティーを表示する。コンテナーに対する完全なアクセス権はありません。

コンテンツに対する権限の設定

コンテンツにアクセスできるユーザー、グループ、または役割を指定するためにアクセス権限を設定します。

このタスクについて

レポート、ダッシュボード、ストーリー、パッケージなど、自分が所有するコンテンツに対する権限を設定することができます。権限を付与したり、拒否したり、デフォルトに設定したりできます。

注: 「デフォルト」の値は、権限が付与も拒否もされていないことを意味します。

エントリーに対して指定できる権限の種類については、 7 ページの『単純なアクセス権限と細分化されたアクセス権限』を参照してください。

アクセス権限を設定するときには、認証プロバイダーのユーザー/グループ/役割と Cognos のグループ/役割の両方を参照できます。ただし、アプリケーションを将来配布する予定の場合は、処理を単純化するために Cognos のグループ/役割のみを使用することを推奨します。

手順

1. 「チーム・コンテンツ」または「個人用コンテンツ」でエントリーを見つけて、そのショートカット・メニュー から「プロパティー」をタップします。
2. 「権限」タブで、「親の権限をオーバーライド **(Override parent permissions)**」チェック・ボックスを選択して、追加アイコン をタップします。
3. エントリーの権限を指定する対象となるユーザー、グループ、または役割を含むネームスペースを開きます。エントリーを素早く見つけるには、検索アイコン をクリックするか、フィルター・アイコン をクリックして、ネームスペース内のエントリーのビューを絞り込みます。
4. 該当するユーザー、グループ、または役割を選択します。 Ctrl キーを押しながら複数のエントリーを選択できます。「追加」をタップします。選択したユーザー、グループ、または役割がエントリーのセキュリティー・ポリシーに追加され、基本的な権限「読み取り」が与えられます。
5. 権限を「実行」、「書き込み」、または「すべて」に変更するには、アクセス権の設定アイコン をタップして権限を変更します。
6. 権限名をタップすると、この権限を構成する細分化された権限が表示されます。細分化された権限を変更するには、権限のアクセス権の設定アイコン をタップして、アクセス権限の種類を「付与」、「拒否」、または「デフォルト」に変更します。
7. 同じ権限を子エントリーに継承させるには、「すべての子に適用 **(Apply to all children)**」チェック・ボックスを選択します。
8. 「適用」をタップします。

コンテンツに対する権限の表示

IBM Cognos Analytics のコンテンツを保護するために、管理者は権限を割り当てます。レポートなどの項目に対する自分の権限は、その項目のプロパティーで確認できます。

このタスクについて

「読み取り」、「実行」、「書き込み」、および「すべて」権限は、管理者によって割り当てられる、より細かな権限の集合を表します。詳細については、 7 ページの『単純なアクセス権限と細分化されたアクセス権限』を参照してください。

手順

1. リスト内の項目のショートカット・メニュー をタップし、次に「プロパティー」をタップします。
2. 「全般」タブで、「詳細」をタップします。 「権限」プロパティーと、エントリーに対する権限値が表示されます。

機能/フィーチャーに対する権限の表示

グループまたは役割のユーザーまたはメンバーとして、ユーザーには各種の IBM Cognos Analytics 機能/フィーチャーを操作するための機能が割り当てられています。

このタスクについて

必要な機能が不足している場合は、管理者に連絡してください。各自のサインイン資格情報で使用できるグループや役割、および機能を確認するには、以下の手順を実行します。

手順

1. 個人用メニューをタップし、次に「個人用基本設定」 > 「個人用」 > 「詳細設定」をタップします。
2. 「グループと役割」または「個人用機能 **(My capabilities)**」のいずれかで「詳細を表示」をタップします。

第 3 章 データのソース

レポート、ダッシュボード、およびストーリーを作成して実行するには、データが必要です。このデータは、パッケージまたはデータ・モジュールを作成する管理者によって使用可能にされることもあれば、独自のデータをアップロードすることもできます。

IBM Cognos アプリケーション用のデータのソースとして、パッケージ、データ・モジュール、アップロードされたファイル、およびデータ・セットを使用できます。

パッケージ

パッケージは、IBM Cognos Analytics アプリケーションで使用可能なモデルのサブセットです。モデル全体の場合もあります。

IBM Cognos Framework Manager ではリレーショナル・パッケージが作成され、IBM Cognos Cube Designer および IBM Cognos Administration では OLAP パッケージが作成されます。詳しくは、「*IBM Cognos Framework Manager* ユーザー・ガイド」のパッケージのパブリッシュに関する章を参照してください。

すべての種類のパッケージをすべての Cognos Analytics コンポーネントで使用できるわけではありません。これまでのバージョンの Cognos Analytics で従来サポートされてきたすべての種類のパッケージを使用できるのは、Reporting のみです。

ダッシュボードおよびストーリーでは、以下のパッケージがサポートされます。

- リレーショナルな動的クエリー・モードのパッケージ。
- パッケージ内の各データ・ソースに JDBC 接続が定義されている場合は、リレーショナルな互換クエリー・モードのパッケージ。
- PowerCubes、動的キューブ、TM1 データ・ソース、ディメンションを使用してモデル化されたリレーショナル (DMR) データ・ソース、その他のデータ・ソースに基づくディメンション OLAP パッケージ。

モデル作成コンポーネントでは、リレーショナルな、動的クエリー・モードのパッケージのみがデータ・モジュールのソースとしてサポートされています。

データ・モジュール

データ・モジュールには、データ・サーバー、アップロードされたファイル、データ・セット、他のデータ・モジュール、リレーショナルな動的クエリー・モード・パッケージからのデータが含まれます。データ・モジュールは IBM Cognos Analytics のモデル作成コンポーネントで作成され、「個人用コンテンツ」または「チーム・コンテンツ」に保存されます。単一のデータ・モジュールに対して複数の入力ソースを使用することができます。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Data Modeling Guide*」を参照してください。

アップロードされたファイル

アップロードされたファイルには、列形式で IBM Cognos Analytics サーバーに保管されたデータが含まれます。

特定のタイプのファイルのみをアップロードできます。サポートされるファイル形式は、Microsoft Excel (.xlsx および .xls) スプレッドシート、およびコンマ区切り、タブ区切り、セミコロン区切り、またはパイプ記号区切り値のテキスト・ファイルです。

デフォルトでは、100 MB までのデータ・ファイルをローカル・ドライブからアップロードできます。ブックをアップロードする場合、Microsoft Excel ブックの最初のシートだけがアップロードされます。ブックの複数のシートからデータをアップロードする場合、個別のブックとしてシートを保存する必要があります。ファイルは、アップロードした後、データ・モジュールを作成するためのソースとして使用できます。

アップロードされたファイルは「個人用コンテンツ」に自動的に保存されます。あとで「チーム・コンテンツ」内のフォルダーやパッケージにそれらをコピーしたり、移動したりできます。

詳細については、『データのアップロード』を参照してください。

データ・セット

11.0.4

データ・セットは、頻繁に使用されるアイテムのカスタム・コレクションです。データ・セットを更新する場合、そのデータ・セットを使用するダッシュボードやストーリーも、次回実行するときに最新の状態に保たれます。

パッケージまたはデータ・モジュールからデータ・セットを作成することができます。データ・セットを使用して、ダッシュボードやストーリーを作成できます。

データ・セットを使用してデータ・モジュールを作成することもできます。データ・セットを使って開始し、そこからデータ・モジュールを作成してそれを拡張することができます。例えば、計算や複数の追加データ・ソースを追加することができます。詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Data Modeling Guide*」を参照してください。

詳細については、 13 ページの『データ・セットの作成』を参照してください。

データのアップロード

データ・ファイルを使用して分析と視覚化を素早く行いたいときは、ユーザー自身がデータ・ファイルを IBM Cognos Analytics にアップロードしてダッシュボードとストーリーで使用できます。また、アップロードされたファイルはデータ・モジュールのソースとしても使用されます。

単純なデータ・ファイルをローカル・ドライブから 100 MB までアップロードできます。管理者は、ファイル・サイズの上限を上げることができますが、ブラウザー

のファイル・アップロード・サイズの上限に注意する必要があります。データは (ピボット・テーブルもクロス集計もない) 列の形式でなければなりません。

ファイルのアップロード

ファイルをアップロードするには「アップロード・ファイル」機能を使用します。

ファイルをアップロードするには、「アップロード・ファイル」 をタップし、ファイルをタップして、「開く」をタップします。ファイルをロードした後、表示される列を選択できるようになります。また、数値データとなる列を指定することもできます。これは、 または列ラベルをタップすることによって行います。数値データには、売上や在庫品目の数などの数値データが含まれます。

アップロードされたファイルの更新

「個人用コンテンツ」または「チーム・コンテンツ」の中でファイルを見つけ、ファイルのショートカット・メニュー をタップして、「ファイルを更新」をタップします。

アップロードされたファイルのデータを Reporting で使用する

アップロードしたファイルをダッシュボード、ストーリー、およびデータ・モジュールで使用できますが、Reporting では使用できません。 Reporting でデータを使用するには、データを含むファイルをアップロードしてデータ・モジュールに取り込む方法があります。詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Data Modeling Guide*」を参照してください。

データ・セットの作成

頻繁に使用するアイテムのカスタム・コレクションをグループ化するには、データ・セットを作成します。

パッケージまたはデータ・モジュールからデータ・セットを作成することができます。

手順

1. 「チーム・コンテンツ」または「個人用コンテンツ」内のパッケージまたはデータ・モジュールまでナビゲートします。
2. パッケージまたはデータ・モジュールのショートカット・メニュー から、「データ・セットの作成」をタップします。
3. データ項目をソース・ペインからデータ・セット・エディター・ペインまでドラッグします。項目は、リスト・レポートと同様の列データとして表示されます。
4. リレーショナル・データまたはデータ・モジュールの場合、「詳細な値を集計し、重複は消去する **(Summarize detailed values, suppressing duplicates)**」チェック・ボックスを選択します。

   このチェック・ボックスを選択すべきかどうか不明な場合は、チェック・ボックスをクリアして、編集ウィンドウでデータがどのように集計されるかを確認

します。通常、要約データに設定する行数を少なくすることで、レポートやダッシュボードのパフォーマンスが向上します。データ・セットでデータを集計しない 1 つの理由は、詳細の一部が途中で失われ、1 つのシステムのデータが別のシステムのデータと一致しなくなる可能性があるためです。これは、平均などの計算で特に当てはまります。

5. データ・セットの列つまり個別の項目にフィルターを追加するには、項目をタップして をタップします。カスタマイズされたフィルターを追加することも、事前設定オプションの 1 つを使用することもできます。
6. プロンプトを含むデータの場合、「再プロンプト」をタップして値を選択するか別の値を入力します。
7. データ・セットが非常に大きい場合、「ページ・ビュー **(Page views)**」アイコン をタップし、以下の 2 つの設定間を切り替えます。
   - 「ページ・デザイン」をタップして、データ取得における遅延を回避します。
   - 更新されたデータを参照するときは、「ページ・プレビュー」をタップします。
8. 列の追加が完了したら、保存アイコン をタップします。
   - 初めてデータ・セットを保存する場合、またはデータ・セットに対する変更を保存する場合、ドロップダウン・リストから「保存」をタップします。このオプションによりメタデータが保存されますが、データはロードされません。データ・セットによっては、データのロードに時間がかかる可能性があります。
   - 更新されたデータ・セットを新規データ・セットに保存するには、ドロップダウン・リストの「名前を付けて次を保存」をタップします。このオプションによりメタデータが保存されますが、データはロードされません。データ・セットによっては、データのロードに時間がかかる可能性があります。
   - データ・セットを保存してデータをロードするには、ドロップダウン・リストの「データを保存してロードする **(Save and load data)**」をタップします。このオプションにより、新しい (または変更後の) メタデータが保存されることに加え、データがロードされます。ダッシュボードまたはストーリーの作成でこのデータを使用する場合、このデータは即時に使用可能になります。
9. 「名前を付けて次を保存」ウィンドウで、データ・セットの保存場所を選択します。「名前を付けて次を保存」ボックスで名前を入力し、「保存」をタップします。
10. オプション: ダッシュボードを作成するときにデータ・セットを作成するには、以下のステップを実行します。
    a. 新規ダッシュボードを作成し、テンプレートを選択し、「**OK**」をタップします。
    b. をタップして、いくつかのデータを追加します。
    c. 「チーム・コンテンツ」をタップしてパッケージにナビゲートし、「開く」をタップします。

d. 「データ・セットの作成」ウィンドウが表示されます。新規データ・セットを作成することができ、それを保存した後、続けてダッシュボードの作成に進むことができます。

データ・セットを変更する必要がある場合、データ・ソースを展開してダッシュボード内から行うこともできます。

第 4 章 レポート

IBM Cognos Analytics の標準レポートとアクティブ・レポートは IBM Cognos Analytics - Reporting コンポーネントで作成されます。

レポートは、ポータルに保存された後に、表示、実行、または編集できます。さまざまな形式と言語でレポート出力を表示できます。また、レポートを E メールやバーストで配布したり、モバイル・デバイスに送信したりできます。定期的な時間間隔で実行されるようにレポートをスケジュールすることもできます。

レポートの管理については、 23 ページの『第 6 章 コンテンツの管理』を参照してください。

レポートの表示と対話式操作

「チーム・コンテンツ」フォルダーまたは「個人用コンテンツ」フォルダーで IBM Cognos Analytics レポートを検索して見つけ、それを開くか実行します。

ビューアーにレポートが開きます。登録、レポート・ビューとして保存、レポート作成での編集など、現在さまざまなオプションがあります。使用可能なオプションは、表示しているレポートのタイプによって異なります。レポートを対話式ビューアーで実行する場合には、フィルタリング、ドリルアップ、ドリルダウンなどの方法でさまざまなデータをレポートに表示するオプションも選択できます。

表示頻度と個人別設定のニーズに最も適したオプションを選択してください。レポートを定期的に見る場合は、そのレポートに登録します。そのレポートが非常に重要な場合は、ホーム・ページとして設定できます。プロンプトとパラメーター値を入力した後、それらを毎回入力しなくてもよいように保存するには、レポートをレポート・ビューとして保存します。編集することを選択した場合は、必要なツールをすべて備えた Reporting にレポートが開きます。

レポート・タイプに応じて、以下のうちの該当するアクションをビューアーで使用できます。

- 「登録」。プロンプト値とオプションを使用してレポートを配信します。
- 「レポート・ビューとして保存」。プロンプト値とオプションをビューに保存します。
- 「「ホーム」として設定」。
- 「編集」。 Reporting を開きます。
- 「実行 **(Run as)**」。出力形式を選択します。
- 「保存」および「名前を付けて保存」。

保存されたレポート出力を表示する場合、そのレポートの新しいバージョンがあるときはアラートが出されるようにするには、「通知を受ける **(Notify me)**」をタップします。

「チーム・コンテンツ」でエントリーを見つけるには、検索するか、「最近使ったファイル」のアイテム・リストを表示します。一方、「個人用コンテンツ」にアイテムを保存して整理することもできます。これは、カスタム・プロンプトを使用してレポート・ビューを保存したり、出力レポートのバージョンを保存したりするのに便利です。

レポートを対話式ビューアーで実行する場合は、レポート・オブジェクトを選択すると表示されるツールバーで以下のオプションを選択できます。

- データをソートする。
- リスト内で、データをグループ化する。
- データを要約する。
- リストまたはクロス集計をグラフに変換する、またはグラフを別の種類のグラフに変更する。
- クロス集計とグラフで列または行を消去する、または列と行を入れ替える。
- 別のレポートにドリルスルーする。
- 11.0.5 計算されたメンバーを追加する。
- 11.0.5 ドリルアップ、ドリルダウン、ディメンション操作 (上位/下位のフィルタリングなど) を実行する。
- 11.0.5 Excel または CSV 出力としてレポートを実行する。
- 11.0.5 グラフの要素 (棒グラフの棒など) を選択して対話する。
- 11.0.6 データ項目の系統情報を表示する。
- 11.0.6 データ項目のビジネス・グロッサリー (IBM InfoSphere® Information Governance Catalog など) にアクセスする。
- 11.0.6 フィルターを作成、編集、または削除する。
- 11.0.6 レポートの現在のビューの内容 (プロンプト値など) を保持した状態でレポート出力の共有または埋め込みを行う。

  レポート出力の共有または埋め込みを行うには、「その他」アイコン をクリックしてから、「共有」または「埋め込み」をクリックします。
- 11.0.6 レポート所有者として、または所有者に付与された機能を使用して、レポートを実行する。

  Cognos Analytics ポータルで、レポートの「プロパティー」スライドアウトにアクセスし、「レポート」タブをクリックしてから「詳細設定」セクションを開きます。

レポート・ビューを使用したレポートのバリエーションの実行

既存の IBM Cognos Analytics レポートを異なるプロンプト値、スケジュール、配信方法、実行オプション、言語、または出力形式で実行するには、レポート・ビューを作成します。レポート・ビューを作成しても元のレポートは変更されません。

レポート・ビューを作成するには、プロンプト値や他の必要な実行オプションを使用してレポートを実行し、保存オプションで「レポート・ビューとして保存」を選択します。プロンプト値および実行オプションがビューに保存されます。レポート・ビューのプロンプト値を編集する場合は、レポート・ビューのプロパティー・パネルを開きます。

個人用コンテンツやチーム・コンテンツにレポート・ビューを作成することもできます。レポートの横のショートカット・メニュー をタップしてから、「レポート・ビューの作成 **(Create report view)**」をタップします。

レポート・ビューのプロパティー・パネルに、ソース・レポートへのリンクが表示されます。ソース・レポートが別の場所に移されても、レポート・ビューのリンクは維持されます。ソース・レポートが削除されると、レポート・ビューのリンクは破損します。

レポートのバージョン

IBM Cognos Analytics レポートを実行すると、ソースからの最新データが表示されます。ただし、多くの場合は、例えば登録したレポートが配信されるときなど、レポートのバージョンや出力が表示されます。レポート出力は、登録、スケジュール、複数の形式または言語、バーストのほか、保存、印刷、および E メールを含む配信方法によって生成されます。

多くの場合は通知され、レポート出力を表示するためのリンクを受け取りますが、コンテンツ・リスト内のレポートの、保存されてアーカイブされたバージョンを表示することもできます。

レポートのバージョンとアーカイブ・バージョンの表示

コンテンツ・リスト内のレポートの をタップし、次に 「バージョンの表示 **(View versions)**」をタップします。

レポートのバージョンの保存

レポートが表示されているときに、アプリケーション・バーで、 または をタップします。保存オプションの場所は、表示しているレポートのタイプによって異なります。

レポート・バージョンを異なる名前で保存したり異なる場所に保存したりするための「名前を付けて保存」も使用できます。

レポート・バージョンの保存された出力の削除

コンテンツ・リスト内のレポートの をタップします。 「バージョンの表示 **(View versions)**」をタップし、リスト内のエントリーをタップし

てから削除アイコンをタップします。削除を実行すると、バージョンの保存された出力形式がすべて削除されます。

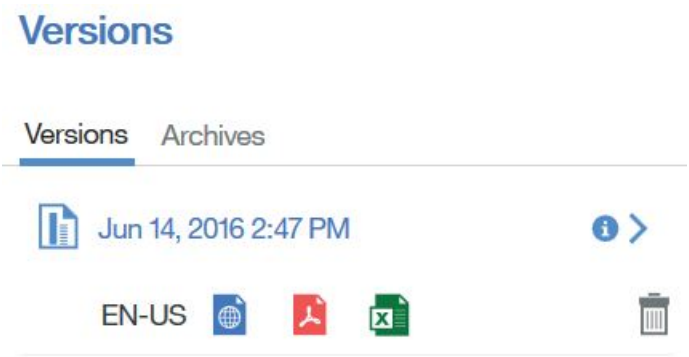


図 2. レポート・バージョンの保存された出力の削除

レポートへの登録

IBM Cognos Analytics レポートを定期的に使用する場合は、そのレポートに登録できます。登録するときは、時刻、日付、形式、および配信される場所を選択します。レポートに登録するとき、すべてのプロンプト値およびパラメーター値が登録に含められます。

このタスクについて

登録オプションを使用できるのはレポートを実行して表示したときであり、編集モードのときや保存された出力を表示しているときは使用できません。レポートを編集した場合、登録するためには、まず保存する必要があります。

登録すると、レポートが配信されるたびに通知されます。「ようこそ」ポータルで「通知」をタップし、レポート出力を表示するためのリンクを含むメッセージを見つけます。

手順

1. レポートを実行します。
2. アプリケーション・バーで、 をタップし、次に「登録」アイコン を タップします。
3. 登録オプションを選択した後、「作成」をタップします。 登録が作成されます。登録を表示または変更するには、ユーザー名をタップした後に、「自分の登録」をタップします。

第 5 章 ダッシュボードとストーリー

IBM Cognos Analytics には、洞察と分析を伝えるためのダッシュボードとストーリーが用意されています。グラフ、図形、プロット、表、マップのようなデータの視覚的表現などの視覚化を含むビューを作成できます。ダッシュボード、ストーリー、または視覚化は、ビジュアル・プロパティーを変更してカスタマイズすることができます。

ダッシュボード

ダッシュボードでは、データに関する重要な洞察や分析結果を 1 つ以上のページや画面に表して、イベントやアクティビティーを一目で観察することができます。対話式のタイトルを使用したり、列をドリルアップ/ドリルダウンしたり、データ・ポイントの詳細を表示したりして、視覚化に表示されているデータを探索できます。

視覚化のタイプを変更したり、視覚化で使用されている列を変更したりできます。フィルターを使用することで、データの 1 つ領域に焦点を当てることも、1 つの列の影響を調べることもできます。また、計算を使用して、ソース列からでは分からないことを明らかにすることもできます。

ダッシュボードの管理については、 23 ページの『第 6 章 コンテンツの管理』を参照してください。

ストーリー

ストーリーとは、一連のシーンを時系列に沿って表示する一種のビューです。ストーリーには、スライド・ショーやガイド付きジャーニーなどのタイプがあります。

ストーリーは、視覚効果を使用して洞察を共有する、という点でダッシュボードとよく似ています。ストーリーの場合は、ダッシュボードとは異なり、時系列に沿った説明を入れて結論や推奨事項を伝えることができます。

例えば、ストーリーの各スライドに分析結果、洞察、情報を含めて、閲覧者がスライド・ショーを実行すると、それらが表示されていくように構成できます。結論や要約を示す最後のスライドにいたるまで、スライドは互いを土台として作成されます。視覚効果やオブジェクトをストーリー内のシーンの中で表示したり消したりして、アニメーション効果を作成することも可能です。

ピン留めコレクションに保存しておいた分析結果、洞察、および視覚効果を再利用してストーリーを手早く作成できます。新しい視覚効果、メディア、Web ページ、画像、図形、テキストをストーリーに追加することも可能です。

ストーリーの管理については、 23 ページの『第 6 章 コンテンツの管理』を参照してください。

第 6 章 コンテンツの管理

IBM Cognos Analytics コンテンツには、レポート、レポート・ビュー、ダッシュボード、ストーリー、パッケージ、アップロードされたファイル、フォルダー、URL、ショートカットなどがあります。

ヒント: 文書化プロセスをシンプルにするために、コンテンツ・アイテムのことをエントリーと呼ぶことがあります。

コンテンツを整理して管理するために、エントリーのフォルダー階層を作成できます。エントリーの移動、コピー、無効化、削除が可能です。さらに、エントリーを非表示して不必要に使用されることがないようにしたり、他のユーザーとエントリーを共有したり、カスタム Web サイトにエントリーを組み込んだりすることもできます。

エントリーのコピーまたは移動

エントリーのコピーを作成する場合、ポータルの別の場所にエントリーの複製を作成することになります。エントリーを移動する場合は、現在のフォルダーからエントリーを削除して、別のフォルダーに配置します。エントリーをコピーしたり移動したりした場合、ID とリンクは維持されるかまたは上書きされます。

あるフォルダーから別のフォルダーにレポートをコピーしたり移動したりしても、レポートはその ID とリンク (関連パッケージへのリンクを含む) を保持します。ただし、既存エントリーを上書きする場合は、エントリーをコピーするか移動するかによって、リンクの振る舞いが異なります。

- コピーして既存エントリーを上書きした場合、既存エントリーの ID とリンクは、コピー元のエントリーのものに置き換えられます。このようなケースでは、レポートのジョブ・スケジュールへのリンクなどのリンクを更新しなければならない場合もあります。
- 移動して既存エントリーを上書きした場合、既存エントリーの ID とリンクは維持されます。この場合、移動したエントリーへの参照は破損します。

このタスクについて

コピーまたは移動しようとしているエントリーに対する読み取り権限が必要です。さらに、現在のフォルダーに対する通過権限と、ターゲット・フォルダーに対する書き込み権限と通過権限が必要です。

手順

1. エントリーのショートカット・メニュー ... から、「コピーまたは移動」をタップします。
2. ターゲット・フォルダーを見つけて、「コピー」をタップします。

エントリーの非表示

レポート、パッケージ、フォルダー、ジョブ、データ・サーバーなど、IBM Cognos Analytics のアイテムが不必要に使用されることがないように、それらを非表示にすることができます。これは特に、不必要に実行されるとシステム・リソースを浪費する可能性があるドリルスルー・レポートの場合に重要です。

エントリーを非表示にするには、そのショートカット・メニューを開き、「プロパティー」をタップします。「全般」タブで、「詳細設定」セクションを開き、「このエントリーを非表示にする」チェック・ボックスを選択します。

コンテンツ・リスト内の非表示エントリーを表示するには、アプリケーション・バーにある自分のユーザー名 アイコンをタップしてから、「個人用設定」をタップします。「全般」タブで、「非表示のエントリーを表示」チェック・ボックスを選択します。

ユーザー・インターフェースの次の部分では、非表示エントリーは薄く表示されます。

- 検索結果。
- 「プロパティー」パネルの「権限」タブ。
- 「個人用」タブ。
- ジョブ内の既存の非表示エントリーを参照するジョブ・ステップ。
- ジョブ内の既存の非表示エントリーを参照するエージェント・タスク。
- レポート実行履歴の詳細。

非表示エントリーには、以下の規則が適用されます。

- 非表示レポートにはドリルスルー・ターゲットとしてアクセスできる。ドリルスルー・ターゲットには、リソースを集中的に使用するクエリー操作を回避するためのパラメーター値が含まれています。ただし、このターゲット・レポートをドリルスルー・アクティビティーで使用するためには、やはり適切な権限がユーザーに必要です。
- ユーザー・インターフェースに非表示エントリーが表示されない場合、非表示のドリルスルー定義は「移動」ページに表示されない。
- 表示されているショートカットは、非表示のエントリーを指している可能性がある。ショートカットが非表示のフォルダーを指している場合は、フォルダー内にある非表示のエントリーはすべて表示されません。

コンテンツの共有と埋め込み

IBM Cognos Analytics コンテンツ・オブジェクトを他のユーザーと共有できます。

レポートやダッシュボードなどのコンテンツ・オブジェクトの共有は、コンテンツ・オブジェクトを直接開く URL を使用して行えます。これにより、Cognos Analytics の「ようこそ」画面からコンテンツ・オブジェクトを参照する必要がなくなります。また、カスタマイズ Web ページに Cognos Analytics コンテンツ・オ

ブジェクトを埋め込むこともできます (データ・モジュールを除く)。埋め込みコンテンツ・オブジェクトは、アプリケーション・バーやナビゲーション・バーを表示しません。

ヒント: データ・モジュールでは「埋め込み」を使用できません。

手順

コンテンツ・オブジェクトの共有と埋め込みを行う方法は 2 つあります。

- 「チーム・コンテンツ」または「個人用コンテンツ」でオブジェクトを参照し、「その他」 をクリックして、「共有」または「埋め込み」をクリックします。
- 11.0.6 開いているレポート、ダッシュボード、ストーリーの共有または埋め込みを行うことができます。これを行うには、アプリケーション・バーの「その他」 をクリックしてから、「共有」または「埋め込み」をクリックします。

ダイアログ・ボックスが開いて、「共有」の場合は URL、「埋め込み」の場合は HTML `iFrame` 要素が表示されます。

タスクの結果

ここで、他のユーザーに「共有」 URL を提供すると、それらのユーザーはコンテンツ・オブジェクトを直接開くことができます。「埋め込み」要素を Web ページに追加すると、コンテンツ・オブジェクトが表示されるようになります。

レポート内の HTML アイテムで URL を使用する場合は、`&` の出現箇所を `&` に置き換えてください。

また、URL を変更して他のアクションを実行することもできます (代わりに編集用にレポートを開く、レポートを実行する、レポートの出力形式を変更するなど)。詳細については、 26 ページの『Cognos Analytics コンテンツを表示および実行するためのカスタム URL の作成』を参照してください。

埋め込みコンテンツを含む認証サンプル

11.0.5

埋め込みコンテンツ・サンプルにより、IBM Cognos Analytics REST API を使用したユーザーのサインインの方法、およびその後に埋め込みコンテンツを表示する方法を示します。

手順

1. `<installation_location>¥samples` フォルダー内の `embedded_content` フォルダーを `<installation_location>¥webcontent` フォルダーにコピーします。
2. テキスト・エディターで `¥webcontent¥embedded_content¥preLoginSample.html` ファイルを開き、次の `<select>` 要素を見つけます。

```
<select size="1" name="namespace">
        <option value="CognosEx">CognosEx (Example)</option>
        <option value="LDAP">LDAP (Example)</option>
</select>
```

3. 設定済みのネームスペースのうち、ログオン・ページに選択項目として表示するものについて、次の構文を使用して `<select>` 要素内に `<option>` 要素を定義します。

   ```
   <option value="namespace_ID">namespace_name</option>
   ```

   namespace_ID は、Cognos Configuration の「セキュリティー」 > 「認証」でそのネームスペースに対して定義された「ネームスペース **ID**」プロパティーに対応します。 *namespace_name* は任意の語にすることができますが、Cognos Configuration で定義された名前をお勧めします。
4. `¥webcontent¥embedded_content¥iFrameSample.html` ファイルを開き、`iFrame` オブジェクトを、ご使用の Cognos Analytics インストール済み環境にある埋め込み `iFrame` オブジェクトに置き換えます。
5. Web ブラウザーで `http://<server_name>:<port>/embedded_content/preLoginSample.html` と入力します。

タスクの結果

サインイン Web ページが表示されます。サインインした後、埋め込みコンテンツ・オブジェクトが表示されます。

Cognos Analytics コンテンツを表示および実行するためのカスタム URL の作成

11.0.5

レポート、ダッシュボード、ストーリー、データ・モジュールなど、IBM Cognos Analytics のコンテンツ・オブジェクトを開いたり実行したりする URL を作成できます。この機能は、Cognos Analytics のコンテンツ・オブジェクトを表示する URL を作成する「共有」コマンドの拡張機能です。これにより、コンテンツ・オブジェクトが表示または実行されるときのアクションをより詳細に制御できます。

24 ページの『コンテンツの共有と埋め込み』で説明されている共有コマンドを使用すると、Cognos Analytics のコンテンツ・オブジェクトを開いて実行する URL を簡単に作成できます。起動されるアクションをより詳細に制御する必要がある場合には、このような URL を作成できます。

11.0.6 カスタム URL でサポートされるレポート・タイプは、標準レポート、レポート・ビュー、アクティブ・レポート、データ・セット、Query Studio レポート、Analysis Studio レポート、およびそれらの出力を保存したものです。

11.0.6 出力を保存したレポートがコンテンツ・オブジェクトである場合は、保存した出力が (存在すれば) 表示されます。その他の場合は、レポートが実行されます。そのコンテンツ・オブジェクトが、出力を保存したものである場合は、それが表示されます。出力を保存したものが削除されている場合は、エラー・メッセージが表示されます。

11.0.7 URL にログイン・パラメーターを指定する機能。

構文

11.0.6 カスタム URL の構文は、次の 2 つの形式のいずれかです。

- http://<*servername*>:<*port*>/bi/?pathRef=<*path*>&<*option1*>=<*value1*>&<*option2*>=<*value2*>...
- http://<*servername*>:<*port*>/bi/?objRef=<*id*>&<*option1*>=<*value1*>&<*option2*>=<*value2*>...

pathRef または objRef は、使用するコンテンツ・オブジェクトを識別します。

pathRef

オブジェクトの場所を指定します。 Cognos Analytics のバージョンが変更されたり、オブジェクトが配布でエクスポート/インポートされたりしても、この値は変更されません。

pathRef の値を決定する最も簡単な方法は、「共有」コマンドを使って URL を作成することです。この URL に pathRef の値が含まれます。

objRef

オブジェクトの ID を指定します。「個人用コンテンツ」または「チーム・コンテンツ」内の別の場所にコンテンツ・オブジェクトが移動されても、この値は変更されません。

objRef の値は、オブジェクトのプロパティー・ペイン内の **ID** 値です。

いくつかの任意指定のオプションを URL に付加することができます。次の 2 つのオプションは、どのパースペクティブでも使用可能です。

ui_appbar

アプリケーション・バーを表示するか (true) それとも表示しないか (false) を指定します。デフォルト値は true です。

ui_navbar

ナビゲーション・バーを表示するか (true) それとも表示しないか (false) を指定します。デフォルト値は true です。

コンテンツ・オブジェクトがレポートの場合には、以下のオプションを使用できます。

action

レポートを実行するには run、レポートを作成するには edit を指定します。 edit は authoring パースペクティブでのみ使用可能です。デフォルト値は run です。

format

レポートを実行するときの出力形式を指定します。可能な値は HTML および PDF です。 classicviewer パースペクティブでは、次の値もサポートされます。 xlsxData、CSV、spreadsheetML、layoutDataXML、XLWA、rawXML、XHTML、singleXLS、および HTMLFragment。デフォルト値は HTML です。

classicviewer パースペクティブを使用するには、オプション perspective=classicviewer を URL に含める必要があります。例:
http://<*servername*>:<*port*>/bi/?perspective=classicviewer&pathRef=<*path*>&<*option1*>=<*value1*>&<*option2*>=<*value2*>...

ally
レポートを実行するときに、ユーザー補助機能を含めるか (true) それとも含めないか (false) を指定します。デフォルト値は false です。

bidi
レポートを実行するときに、双方向言語サポートを有効にするか (true) それとも有効にしないか (false) を指定します。デフォルト値は false です。

プロンプト **(prompt)**
レポートを実行するときに、プロンプト・ページを表示するか (true) それとも表示しないか (false) を指定します。デフォルト値は false です。

p_<*prompt_name*>
レポートを実行するときに .<*prompt_name*> という名前のプロンプトに使用する値を指定します。

promptParameters
レポートを実行するときに、プロンプト・パラメーターを JavaScript Object Notation (JSON) オブジェクトとして指定します。レポートの実行時に使用する、より複雑なプロンプトを渡すことができます。詳細については、『promptParameters オプション構文』を参照してください。

- カスタム URL を作成する最も簡単な方法は、カスタム URL の作成対象となるコンテンツ・オブジェクトに対して「共有」コマンドを使用した後、この URL 内でオプションを変更することです。
- カスタム URL は長くなる可能性があり、Cognos Analytics サーバー環境によっては URL のクエリー部分に長さ制限が課されることがあります。URL 内で URL フラグメント ID (#) を使用することにより、この制限を回避できます。いくつかの例を示します。
  - http://<*servername*>:<*port*>/bi/#pathRef=<*path*>&<*option1*>=<*value1*>&<*option2*>=<*value2*>...
  - http://<*servername*>:<*port*>/bi/?pathRef=<*path*>&<*option1*>=<*value1*>#<*option2*>=<*value2*>...

  また、HTTP POST メソッドを使用してオプションを Cognos Analytics サーバーに送ることもできます。
- Cognos Analytics サーバーでユーザー認証が必要な場合は、Web ブラウザーでカスタム URL を実行したときにサインイン・ビューが表示されます。認証の問題を扱う方法については、 24 ページの『コンテンツの共有と埋め込み』を参照してください。
- レポート内の HTML アイテムでカスタム URL を使用する場合、& の出現箇所を & に置き換えてください。

promptParameters オプション構文

11.0.5

promptParameters オプションを使用すると、レポートの実行時に使われる複雑なプロンプト値を渡すことができます。プロンプト値は JavaScript Object Notation (JSON) オブジェクトの中に含まれます。

構文

promptParameters オプションの構文は promptParameters=[{*<prompt_1>*},{*<prompt_2>*,...] です。各プロンプト値の構文はプロンプト値の種類に応じて異なり、次のとおりです。

特定の値

```
{
 "name":"<prompt_name>",
 "value":[
  {"use":"<use_value1>","display":"<display_value_1>"},
  {"use":"<use_value2>"},
              ...
 ]
}
```

<prompt_name> はプロンプトの名前、*<use_value1>* は使用値、*<display_value_1>* は表示値です。表示値はオプションです。

境界のある範囲

```
{
 "name":"<prompt_name>",
 "value":[
  {
  "boundRange":{
   "start": {"use":"<use_start_value>", "display":"<display_start_value>"},
   "end": {"use":"<use_end_value>"}
  }}
 ]
}
```

<prompt_name> はプロンプトの名前、*<use_start_value>* は低い使用値、*<display_start_value>* は低い表示値、*<use_end_value>* は高い使用値です。表示値はオプションです。

境界のない開始範囲

```
{
 "name":"<prompt_name>",
 "value":[
  {
  "unboundedStartRange": {
  "end": {"use":"<use_end_value>", "display":"<display_end_value>}
 }
}
```

<prompt_name> はプロンプトの名前、*<use_end_value>* は高い使用値、*<display_end_value>* は高い表示値です。表示値はオプションです。

境界のない終了範囲

```
{
 "name":"<prompt_name>",
 "value":[
  {
  "unboundedEndRange": {
  "start": {"use":"<use_start_value>", "display":"<display_start_value>}
 }
}
```

<prompt_name> はプロンプトの名前、*<use_start_value>* は低い使用値、*<display_start_value>* は低い表示値です。表示値はオプションです。

他のサイトを指す URL の作成

URL は、外部ファイルや Web サイトの場所を特定するための標準的な方法です。URL を作成することにより、頻繁に使用するファイルや Web サイトに簡単にアクセスできるようになります。 URL をクリックすると、ファイルや Web サイトがブラウザーで開きます。

このタスクについて

URL には、管理者によって指定された、有効なドメイン・リストに含まれる有効なサーバー名が含まれている必要があります。そうでない場合は、URL を作成できません。

管理者は有効なドメインのリストを管理します。詳しくは、「*IBM Cognos Analytics* インストールおよび設定ガイド」を参照してください。

手順

1. 「チーム・コンテンツ」または「個人用コンテンツ」をタップして、「新規」 アイコンをタップします。
2. 「**URL**」 をタップします。
3. 「名前」ボックスに新しい URL の名前を入力します。
4. 必要に応じて、「説明」と「画面のヒント」を指定します。
5. 「**URL**」ボックスに URL の場所を入力します。

   URL が Web サイトのアドレスを指す場合は、プロトコルを含める必要があります。例えば、IBM Web サイトの URL を作成するには、`http://www.ibm.com` と入力します。

   URL では、管理者が指定した有効なドメインを使用する必要があります。使用可能なドメインのリストを表示するには、「使用可能なドメインを表示」をクリックします。
6. 「**OK**」をタップします。

エントリーのプロパティーの設定

IBM Cognos Analytics でのエントリーの表示と振る舞いを、そのプロパティーを変更することによって制御できます。

レポート、フォルダー、ダッシュボード、ストーリー、アップロードされたファイル、データ・モジュール、その他のエントリーの一般プロパティーと詳細プロパティーを表示および設定できます。プロパティー・パネルを開くと、すべてのエントリーに対する「全般」タブと「権限」タブ、および表示しているエントリーに対応するタブ (レポートに対する「レポート」と「スケジュール」など) が表示されます。

エントリーのプロパティー・パネルを開くには、「その他」メニュー ••• から、「プロパティー」をタップします。

第 7 章 スケジュールの管理

都合の良いときやシステム上の要求が少ないときに実行されるようにエントリーをスケジュールできます。または、週単位や月単位で定期的に実行することもできます。

スケジューリングを使用するには、「スケジュール」機能に対する権限が必要です。詳しくは、「*Managing IBM Cognos Analytics Guide*」を参照してください。

エントリーのスケジューリング

レポートやレポート・ビューなどのエントリーをスケジュールして、後で実行したり、定期的な日時に実行したりすることができます。

各エントリーに関連付けることができるスケジュールは 1 つのみです。1 つのレポートに複数のスケジュールが必要な場合は、複数のレポート・ビューを作成してから、ビューごとにスケジュールを 1 つ作成します。

エントリーを個別にスケジュールすることも、ジョブを使用して複数のエントリーを一度にスケジュールすることもできます。ジョブには、個別エントリーのスケジュールに依存しない独自のスケジュールが設定されます。詳細については、 34 ページの『ジョブを使用して複数のエントリーをスケジュールする』を参照してください。

エントリーをスケジュールするには、エントリーを実行するための権限が必要です。例えば、レポートまたはレポート・ビューをスケジュールするには、これらに対する読み取り権限、書き込み権限、実行権限、および通過権限が必要です。子レポート・ビューをスケジュールするには、親レポートに対する実行権限が必要です。エントリーが使用するデータ・ソースのために必要なアクセス権も必要です。

ユーザーが使用できるスケジューリング・オプションは、「スケジュール」機能に対するユーザーの権限によって異なります。

詳しくは、「*Managing IBM Cognos Analytics Guide*」を参照してください。

手順

1. エントリーのショートカット・メニュー ⋯ をタップしてから、「プロパティー」をタップします。
2. 「プロパティー」ウィンドウで、「スケジュール」タブをタップしてから、「新規」をタップします。
3. 「スケジュールの作成 **(Create schedule)**」ウィンドウで、スケジュール・オプションを指定します。
4. 追加のスケジューリング・オプションにアクセスするには、「クラシック・ビュー **(Classic View)**」をタップします。オプションを指定し、「作成」をタップします。前のビューに戻ったら、もう一度「作成」をタップします。

「スケジュールの作成 **(Create schedule)**」ページにスケジュール・エントリーが表示されます。

次のタスク

スケジュールを作成すると、エントリーやジョブは指定された日時に実行されます。これでスケジュールを表示して管理できるようになります。詳細については、39 ページの『自分のスケジュールと登録』を参照してください。

不要になったスケジュールは削除できます。また、スケジュールの詳細を保持したまま、スケジュールを無効にすることもできます。このスケジュールは、後で有効にすることができます。

ジョブを使用して複数のエントリーをスケジュールする

ジョブを作成すると、複数のエントリーに同じスケジュールを設定できます。ジョブとは、一緒にスケジュールされ、同じスケジュール設定を共有するレポート、レポート・ビュー、および他のジョブの集合を表します。スケジュールしたジョブが実行されると、ジョブに含まれているすべてのエントリーが実行されます。

ジョブ項目が使用できない場合は、「エントリーへのリンク」をクリックすると、異なるリンクを選択できます。

ジョブはステップで構成されます。各ステップからは、個々のレポート、ジョブ、およびレポート・ビューが参照されます。ステップは、一度に実行することも、順番に実行することもできます。

- すべてのステップを一度に実行する場合は、すべてのステップが同時に実行依頼されます。すべてのステップが正しく実行されればジョブは成功です。ステップの 1 つが失敗しても、ジョブの他のステップは影響を受けることなく実行されますが、ジョブのステータスは「失敗」となります。
- ステップを順番に実行する場合は、実行する順序を指定できます。この場合は、前のステップが問題なく実行された場合のみ、次のステップが実行依頼されます。ステップの実行に失敗した場合は、ジョブを停止するか、他のステップを続行するかのどちらかを選択できます。

ジョブは、特定の時間に実行するようにスケジュールすることも、繰り返し実行するようにスケジュールすることも、トリガー (データベースの更新やメールなど) で駆動するようにスケジュールすることもできます。トリガー駆動型のエントリーのスケジューリングについて詳しくは、「管理およびセキュリティー・ガイド」を参照してください。

各ステップの個々のレポート、ジョブ、およびレポート・ビューに対して、個別のスケジュールを設定することもできます。個々のステップ・エントリーの実行オプションは、ジョブの実行オプションよりも優先されます。ジョブに設定する実行オプションは、独自の実行オプションがないステップ・エントリーのデフォルトとなります。

レポートを実行して、カスタムで定義した形式、言語、ユーザー補助機能などのオプションに基づく出力を作成できます。

エントリーをジョブの一部として含めるために必要となる権限は、エントリーのタイプによって異なります。それは、エントリーをスケジュールするための権限と同じです。エントリーのスケジューリングについて詳しくは、 33 ページの『エントリーのスケジューリング』を参照してください。

手順

1. IBM Cognos Analytics ポータルで、 「新規」を選択してから、 「ジョブ」を選択します。
2. 名前を入力し、必要に応じてジョブの説明と画面のヒントを入力します。その後、ジョブを保存する場所を選択して、「次へ」をクリックします。

   「ステップを選択」ページが表示されます。
3. 「追加」をクリックします。
4. 追加するエントリーのチェック・ボックスをオンにして、矢印ボタン をクリックします。目的のエントリーが「選択されたエントリー」ボックスに表示されたら、「**OK**」をクリックします。

   「検索」をクリックし、「検索文字列」ボックスに検索語句を入力することもできます。検索オプションを指定するには、「編集」をクリックします。目的のエントリーが見つかったら、右向きの矢印ボタンをクリックして「選択されたエントリー」ボックスにエントリーを追加し、「**OK**」をクリックします。

   「選択されたエントリー」リストからエントリーを削除するには、削除するエントリーを選択して「削除」をクリックします。リスト内のすべての項目を選択するには、そのリストのチェック・ボックスを選択します。ユーザー・エントリーを表示するには、「リストにユーザーを表示する」をクリックします。
5. ジョブの一部として実行する際の個々のエントリーの実行オプションを変更するには、「設定」アイコン をクリックして、「出力レポートを作成」をクリックし、「デフォルト値をオーバーライド」ボックスにチェック・マークを付け、変更を加えてから「**OK**」をクリックします。

   携帯機器ユーザーにレポートを送信するには、「レポートを携帯機器を使用する受信者に送信する」を選択し、「受信者を選択」をクリックします。

   ヒント**:** 各エントリーの設定をデフォルトに戻すには、「削除」ボタンをクリックします。
6. ジョブの実行時にレポートのキャッシュを更新するには、レポートの横にある「編集」アイコンをクリックして、「レポートを実行」メニューから「レポートのキャッシュを更新」をクリックします。「デフォルト値をオーバーライド」をクリックします。表示された言語を受け入れる場合は、「**OK**」をクリックします。言語を変更する場合は、「言語を選択」をクリックして希望する言語を選択してから「**OK**」をクリックします。「**OK**」をクリックして、表示された言語を選択します。

   ヒント**:** キャッシュをクリアするには、「削除」ボタンをクリックします。

7. キャッシュを作成または更新するには、「設定」アイコンをクリックして、「レポートのキャッシュを更新」をクリックし、「デフォルト値をオーバーライド」ボックスをオンにします。必要に応じて言語を追加し、「**OK**」をクリックします。

   ヒント**:** キャッシュをクリアするには、キャッシュをクリアするレポートの横にある「詳細」をクリックし、「キャッシュをクリア」をクリックして、「**OK**」を 2 回クリックします。

8. 「ジョブ・ステップの送信」で、ステップを「すべて同時」に送信するか、「順送り」で送信するかを選択します。

   「順送り」を選択すると、ステップは「ジョブ・ステップ」リストに表示されている順序で実行されます。いずれかのステップが失敗してもジョブを続行する場合は、「エラー時も継続する」チェック・ボックスをオンにします。

   ヒント**:** 順序を変更するには、「順番を編集」をクリックし、必要な変更を行ってから「**OK**」をクリックします。

9. ジョブ・レベルでデフォルトの実行オプションを指定する場合は、「全ステップに対するデフォルト値」の「設定」をクリックします。

   複数のエントリーを含むジョブで使用できる実行オプションは、すべてのエントリーには適用されない場合があります。あるエントリーにオプションが適用されない場合、その内容は無視されます。

10. デフォルト値をオーバーライドするには、カテゴリーを選択し、「デフォルト値をオーバーライド」チェック・ボックスをオンにし、ジョブのデフォルト・オプションを選択して、「**OK**」をクリックします。
11. 実行操作が正常に終了したときに、ジョブ・ステップの完全な履歴詳細が保存されるようにするには、実行履歴の詳細レベルのリストから「すべて」をクリックします。ジョブの限定的な実行履歴詳細が保存されるようにするには、「限定」をクリックします。ジョブの実行に失敗した場合、完全な履歴詳細が保存されます。

    デフォルト値は「すべて」です。

12. 次のいずれかを行います。
    - 今すぐ実行または後で実行するには、「今すぐ実行、またはあとで実行」、「終了」の順にクリックします。実行する時刻と日付を設定します。「検索のみ」または「検索して修正」をクリックし、「実行」をクリックします。実行日時を確認し、「**OK**」をクリックします。
    - 定期的に実行するようにスケジュールするには、「繰り返し実行するようにスケジュール」、「終了」の順にクリックします。次に、頻度、開始日、および終了日を選択します。「検索のみ」または「検索して修正」をクリックし、「**OK**」をクリックします。

      ヒント**:** スケジュールを一時的に無効にするには、「スケジュールを無効化」チェック・ボックスをオンにします。スケジュールのステータスの確認について詳しくは、「管理およびセキュリティー・ガイド」を参照してください。

- スケジュールまたは実行を行わずに保存するには、「保存のみ」、「終了」の順にクリックします。

タスクの結果

ジョブが作成され、次回のスケジュール日時に実行されます。

第 8 章 個人設定

個人設定を使用して、IBM Cognos Analytics のユーザー・エクスペリエンスをカスタマイズします。個人と地域の情報を表示して編集する、システム・アクティビティーをモニターする、ログ記録をセットアップするなどの操作を行えます。

個人設定のいずれかを表示または変更するには、アプリケーション・バーのユーザー・アイコン をタップします。このアイコンのツールチップに自分の名前が表示されます。

自分に適用できる最新のシステム・アクティビティーに関する通知を表示するには、アプリケーション・バーの通知アイコン をタップします。

通知

通知を使用して、重要なデータを確実に把握することができます。レポートまたはレポート・ビューに登録すると、登録対象が配信されるたびに通知されます。保存された出力を表示している場合に、そのレポートの新しいバージョンがあることが分かるようにするには、「通知を受ける **(Notify me)**」ボタンをタップします。

「通知を受ける **(Notify me)**」ボタン は、レポートの保存出力バージョンを表示したときに、アプリケーション・バーで使用可能です。通知を要求すると、要求後にそのレポートを別のユーザーが実行した場合に、更新されたバージョンへのリンクを含む通知を受け取ります。

登録の際に「レポートをシステムに保存 **(Save the report on the system)**」配信オプションを選択した場合、レポートの新しいバージョンのリンクが記載された通知を受け取ります。すべての通知を表示するには、ナビゲーション・バーにある をタップします。

詳細については、 20 ページの『レポートへの登録』を参照してください。

自分のスケジュールと登録

「自分のスケジュールおよび登録 **(My schedules and subscriptions)**」パネルで、すべてのスケジュールされた処理および登録を表示できます。

現在、過去、または特定日に予定されている、スケジュールされた処理のリストを表示できます。このリストにフィルターをかけると、目的のエントリーのみを表示できます。横棒グラフには、毎日の処理の概要が時間単位で表示されます。表示を切り替えた場合、現在のデータを表示するには更新を行う必要があります。例えば、「過去の処理」から「予定されている処理」に切り替えた場合、ウィンドウで現在のデータを表示するには、更新する必要があります。スケジュールされた処理の管理について詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Managing Guide*」を参照してください。

登録の有効化、無効化、変更、または削除が可能であり、保存された出力つまりアーカイブ・バージョンを表示できます。バージョンを表示した場合は、実行ステータス、エラー・メッセージ、実行日時などの情報のためのバージョン詳細パネルを開くこともできます。

手順

1. アプリケーション・バーで、自分のユーザー名 アイコンをタップした後、「自分のスケジュールと登録」をタップします。
2. リスト内のエントリーの をタップし、次に目的のアクションをタップします。

個人用設定

IBM Cognos Analytics アプリケーションの基本設定をセットアップできます。

基本設定を設定するには、アプリケーション・バーのユーザー名 アイコンをタップした後、「個人用設定」をタップします。

言語の設定

IBM Cognos Analytics ユーザー・インターフェースに使用する言語を選択できます。また、データおよびレポートが多言語対応になっている場合は、コンテンツ表示用の言語を選択できます。「個人用設定」で選択してください。

言語設定を変更するには、まず、開いているアイテムをすべて閉じ、「個人用設定」で言語を選択し、「個人用設定」を閉じてから、ブラウザーを最新表示します。新しい言語設定が有効になります。

ヘブライ語、アラビア語、ウルドゥー語、ペルシア語などの双方向言語のサポートもあります。レポート作成者は、言語固有の数字の表示や、テキスト、クロス集計、およびグラフの向きを制御することができます。

詳しくは、「*IBM Cognos Analytics* 管理およびセキュリティー・ガイド」、および「*IBM Cognos Analytics - Reporting* ユーザー・ガイド」を参照してください。

UI のヒントをオンにする

IBM Cognos Analytics に初めてサインインすると、ユーザー・インターフェースのナビゲーションに役立つヒントが表示されます。ヒントをオフにしたが再度表示したい場合は、「個人用設定」の「ヒントを表示 **(Show hints)**」チェック・ボックスを選択します。

レポート実行のデフォルト形式の設定

IBM Cognos Analytics レポートのデフォルト実行形式を設定できます。

手順

1. ユーザー名をタップした後、「個人用設定」をタップします。
2. 目的のレポート形式を選択します。

資格情報

資格情報とは、IBM Cognos Analytics にサインインする際に使用するユーザー名とパスワードのことです。資格情報には、グループ、役割、機能、および権限が関連付けられており、これによって、ユーザー・インターフェースのどの部分を使用できるか、また、コンテンツをどのように操作できるかが決まります。

Cognos Analytics へのサインインに使用するパスワードを変更した場合、必ず資格情報を更新するようにしてください。保存した資格情報は、夜間など、サインインしていない状態でスケジュール済み要求を実行する際に、使用されます。資格情報は 1 日に 1 回自動的に更新されますが、パスワードの変更後に、資格情報が自動更新される前にスケジュール済み要求が実行されると、それが失敗する場合があります。

データ・サーバーへの接続時に資格情報を入力するよう求められた場合、資格情報を保存して、同じデータ・サーバーを使用する際に毎回資格情報を求められないようにすることができます。保存したデータ・サーバーの資格情報は、詳細設定の個人用の設定にリストされます。リストされているエントリーは、表示したり削除したりできます。

各自のサインイン資格情報で使用できるグループや役割、および機能を確認するには、 10 ページの『機能/フィーチャーに対する権限の表示』を参照してください。

資格情報の更新

資格情報は、1 日 1 回、または管理者が設定した間隔で自動的に更新されますが、サインイン・パスワードを変更した場合は手動で資格情報を更新する必要があります。

このタスクについて

スケジュールされたタスクを実行する際に資格情報が使用されている場合は、サインイン・パスワードを変更した際に手動で資格情報を更新することは重要です。

手順

1. 「個人用」メニューをタップし、次に「個人用基本設定」 > 「個人用」 > 「詳細設定」をタップします。
2. 「資格情報」で、「更新」をタップします。

資格情報の管理

エントリーを所有しているなら、信頼できるユーザーが特定のタスクを実行するためのアクセス権限を持っていない場合に、そのユーザーに資格情報を使用する許可を与えることができます。個人用の詳細設定で、所有している資格情報の使用が許可されているグループ、ユーザー、および役割をリストに表示したり、追加したり、削除したりすることができます。

このタスクについて

複数のネームスペースからグループ、ユーザー、または役割を追加する場合、手順 3 で選択肢として説明されているメソッドのタイプを使用できます。

手順

1. 「個人用」メニューをタップし、次に「個人用基本設定」 > 「個人用」 > 「詳細設定」をタップします。
2. 「個人用資格情報 **(My credentials)**」では、「管理」をタップします。
3. グループ、ユーザー、または役割を追加するには、 をタップして、次に以下のいずれかを行います。
   - 「名前」リストから「ネームスペース」を選択します。次に、キーワードで検索するか、タイプでフィルタリングすれば、対象を簡単に見つけることができます。
   - 追加するエントリーの名前を入力するには、 をタップして、「入力 **(Type in)**」を選択します。グループ、役割、またはユーザーの名前を、以下の形式で入力します。各エントリーはセミコロンで区切ります。

     namespace/group_name;namespace/role_name;namespace/user_name;

     次に例を示します。

     `Cognos/Authors;LDAP/scarter;`
4. 追加する名前を選択して、「追加」をタップします。 選択内容が「個人用資格情報 (My credentials)」スライドアウト・パネルにリストされます。

データ・サーバーの資格情報の管理

個人の詳細設定で、保存されたデータ・サーバーの資格情報を表示したり削除したりできます。

手順

1. 「個人用」メニューをタップし、次に「個人用基本設定」 > 「個人用」 > 「詳細設定」をタップします。
2. 「データ・サーバーの資格情報 **(Data server credentials)**」では、「管理」をタップします。

ログ記録レベルの設定

11.0.4

IBM Cognos サーバーに存在するロギング機能に加えて、独自のワークステーションのログおよびエラー・レポートを生成することができます。このタイプのクライアント・サイドのロギングはトラブルシューティングに重要であり、サーバー環境から検出できない JavaScript の異常に対応することができます。

このタスクについて

ロギングをオンまたはオフにしたり、ロギング・レベルを設定したりすることができます。通常の環境下では、ロギングはオンになっていますが、レベルは「エラー」に設定されます。環境によっては、IBM お客様サポートからロギング・レベルを上げるよう指示されることもあります。以下のいずれかのレベルに設定します。

エラー
: クライアント・ワークステーションでの処理の際に発生する重要なエラー・メッセージのみを追跡するロギングの基本レベル。

警告
: ロギングの「エラー」レベルのすべての情報が含まれ、かつシステム機能に影響を与えない状況に関する警告が含まれるロギングの次のレベル。

通知
: このレベルのロギングは、ロギングの前のレベルすべてを集約します。これには、ユーザー・インターフェースの通常の操作に関する詳細が含まれます。このレベルのパフォーマンスは低速である場合があります。

デバッグ
: このレベルのロギングには、ほとんどの情報が含まれます。これは、独自の拡張をテストしている場合や、ソフトウェア開発チームのメンバーまたはお客様サポートによって提案された場合に使用します。このレベルのパフォーマンスは非常に低速です。

ロギング・レベルはブラウザー・キャッシュに保管されます。ブラウザー・キャッシュをクリアすると、ロギング・レベルはデフォルト設定に戻ります。

手順

1. アプリケーション・バーのユーザー名 アイコンをタップした後、「個人用設定」をタップします。
2. 「個人用」タブで、「詳細設定」セクションを展開します。
3. 「ロギング」では、「管理」をクリックします。
4. ロギングがオンであることを確認します。
5. 「ロギング・レベル」を、お客様サポート担当者によって指示されたレベルに設定します。
6. ブラウザー・コンソールからログを取得するには、キーボードの **F12** キーを押すか、ブラウザー・メニューから「開発者」をクリックして「**Web** コンソール **(Web Console)**」をクリックします。

   ヒント**:** Web ブラウザーが Firefox の場合、Firebug などのアドオンを使用して、さらに簡単にコンソールからログ・ファイルを取得して保存することができます。
7. トラブルシューティングが完了した後、「ロギング」設定ウィンドウに戻り、作業中にロギングによってシステムがスローダウンしないよう、ロギングが再び「エラー」に設定されていることを確認します。

次のタスク

システムのトラブルシューティングについて詳しくは、「*IBM Cognos Analytics Troubleshooting Guide*」を参照してください。

第 9 章 その他の Cognos 製品との統合

IBM Cognos Analytics は、他の IBM Cognos 製品のサポート対象バージョンと統合されているので、お客様のニーズに合わせて分析機能を拡張することができます。

以下のアプリケーションにアクセスするには、それらのアプリケーションがインストールされていなければなりません。また、他のアプリケーションを有効にするカスタム・オプションを使用して、IBM Cognos Analytics がインストールされていなければなりません。コンパニオン・アプリケーションのオープンについては、48 ページの『コンパニオン・アプリケーションを開く』を参照してください。

Cognos Planning - Analyst

サポートされているバージョンでは、「Framework Manager モデルの生成 (Generate Framework Manager Model)」ウィザードを使用することにより、IBM Cognos Analytics で発行済みプラン・データにアクセスできます。詳しくは、「*IBM Cognos Analyst* ユーザー・ガイド」を参照してください。

Cognos Planning - Contributor

サポートされているバージョンでは、IBM Cognos Analytics - Contributor Data Server コンポーネントをカスタム・インストールすることにより、IBM Cognos Analytics で、未発行のリアルタイム Contributor キューブにアクセスできます。このコンポーネントは、IBM Cognos Planning - Contributor に付属しています。

サポートされているバージョンでは、Contributor の「Framework Manager モデルの生成 (Generate Framework Manager Model)」管理拡張を使用することにより、 IBM Cognos Analytics で発行済みプラン・データにアクセスできます。詳細については、「*IBM Cognos Contributor Administration Guide*」を参照してください。

Cognos Finance

IBM Cognos Finance Network API Service を使用すると、Series 7 ネームスペースに対して保護されている IBM Cognos Finance キューブにアクセスできます。また、データやメタデータを IBM Cognos Finance からエクスポートして、Framework Manager で使用することもできます。

Cognos Controller

IBM Cognos Controller のインストール時に作成した定義済みの Framework Manager モデルを使用すると、IBM Cognos Analytics にアクセスして、IBM Cognos Controller Standard Reports を作成できます。また、発行済みの Controller データや構造に Framework Manager でアクセスし、カスタム・レポートの作成や分析を行うこともできます。

Cognos Transformer

サポートされているバージョンの Transformer で生成された IBM Cognos PowerCube および Transformer モデルを、IBM Cognos Analytics で直接使用できます。キューブやモデルには上位互換性があり、移行やアップグレ

ードのツールは不要です。IBM Cognos Analytics で、IBM Cognos PowerCube に対してレポートや分析を実行できます。

Cognos TM1®

IBM Cognos TM1 は、ビジネス計画、パフォーマンス測定、および運用データを統合しています。そのため、企業は地理的または構造的状況に関係なく、ビジネスの効果性および顧客との対話を最適化することができます。Cognos TM1 では、データの即時の可視性、協調プロセス内の責任、および情報を一貫して詳細にモニタリングできるため、経営陣は運営の変動を安定化し、新しいビジネス・チャンスを活用できます。 詳細については、「*IBM Cognos TM1* ユーザー・ガイド」を参照してください。

Cognos PowerPlay

PowerCube データ・ソースに基づいたレポートを作成したり表示したりするには、IBM® Cognos® PowerPlay® Studio を使用します。詳しくは、「*IBM Cognos PowerPlay Studio* ユーザー・ガイド」を参照してください。

IBM Cognos Software Development Kit

IBM Cognos Software Development Kit は、IBM Cognos Analytics サービスおよびコンポーネントを操作するためのプラットフォーム非依存の自動化インターフェースを提供します。

組織内の開発者は、IBM Cognos Software Development Kit を使用することにより、組織のニーズやロケール、既存のソフトウェア・インフラストラクチャーに合うように、カスタム・レポートを作成し、配布を管理し、セキュリティー機能とポータル機能を統合できます。 Software Development Kit では、クロスプラットフォームの Web サービス、ライブラリー、およびプログラミング・インターフェースのコレクションが使用されます。

モデル作成から、レポート作成、スケジュール、配信にいたるまで、特定のタスクのみを自動化したり、処理全体をプログラム化したりできます。

ソフトウェア開発キットは別個のパッケージとして提供されます。

詳しくは、「*IBM Cognos Software Development Kit Developer Guide*」を参照してください。

Cognos BI から Cognos Analytics への機能マッピング

IBM Cognos Analytics は IBM Cognos Business Intelligence の後継バージョンです。

次の表は、BI の機能が IBM Cognos Analytics のどこにあるかを示しています。コンパニオン・アプリケーションをユーザー・インターフェースで使用できるのは、コンパニオン・アプリケーションがインストールされていて、Cognos Analytics のカスタム・インストールでレガシー・アプリケーションが有効にされた場合のみです。コンパニオン・アプリケーションのいくつか (すべてではない) は、個別にインストールされます。

表 1. *BI* から *Cognos Analytics* への機能マッピング

IBM Cognos Business Intelligence	**IBM Cognos Analytics**
Cognos Connection	「ようこそ」ポータル
Cognos Viewer	ビューアーには名前が付けられていません。表示するアイテムによって、ビューアーの機能は異なります。
Report Authoring	Reporting: 新しいレポートを作成するには、「ようこそ」ポータルで をタップし、次に「レポート」をタップします。コンテンツ・リスト内のレポート・エントリーについては、 をタップしてから「編集」をタップすると、Reporting にレポートが開きます。
相当機能なし (Cognos Analytics の新機能)。	データ・モデリング: 新しいデータ・モジュールを作成するには、「ようこそ」ポータルで「新規」 アイコンをタップし、次に「データ・モジュール」をタップします。
Cognos Administration	Managing: 管理機能の一部を取り込んでいます。「ようこそ」ポータルからアクセスします。「管理」パネルから完全な管理コンソールにリンクしています。
Workspace Advanced	Reporting: Workspace Advanced 機能が取り込まれています。Reporting のページ・プレビューは、Workspace Advanced のページ・プレビューに似ています。
ドリルスルー定義	コンパニオン・アプリケーション: ドリルスルーにアクセスするには、「ようこそ」ポータルのナビゲーション・バーで「新規」 をタップし、次に「その他」 をタップします。ドリルスルー定義では Framework Manager パッケージがサポートされますが、データ・モジュールはサポートされません。
Event Studio	コンパニオン・アプリケーション: Event Studio にアクセスするには、「ようこそ」ポータルのナビゲーション・バーで「新規」 をタップし、次に「その他」 をタップします。
個人用受信トレイ	通知: 登録および出力レポート・バージョンに関してシステムに保存することを選択した場合は、「ようこそ」ポータルの「通知」にアクセスして、通知を開き、レポート・バージョンへのリンクをタップします。 また、個人用設定から個人用受信トレイにアクセスできます。
Analysis Studio	コンパニオン・アプリケーション: アクセスするには、「ようこそ」ポータルで「新規」 をタップし、次に「その他」 をタップします。
Query Studio	コンパニオン・アプリケーション: アクセスするには、「ようこそ」ポータルで「新規」 をタップし、次に「その他」 をタップします。

表 1. *BI* から *Cognos Analytics* への機能マッピング (続き)

IBM Cognos Business Intelligence	**IBM Cognos Analytics**
Workspace	Dashboarding: Workspace 機能が取り込まれています。ただし、その他の機能が必要であれば、Workspace コンパニオン・アプリケーションにアクセスできます (Workspace がインストールされている場合)。「ようこそ」ポータルのナビゲーション・バーで「新規」 をタップし、次に「その他」 をタップします。
Framework Manager	Framework Manager

旧型式から標準モードの HTML への移行

大半のユーザー・インターフェースが旧型式から標準モードの HTML に移行しているため、既存のレポートに小さな変更が必要になることがあります。Web ブラウザーの設定のアップデートも必要になる場合があります。

IBM Cognos Analytics ユーザー・インターフェースの多くは、Cognos Analytics ポータル、Cognos Analytics – Reporting、HTML ビューアーとレポートなどの、標準モード HTML を使用するようになりました。レポートは旧型式から標準 HTML に移行しているので、レポートの外観は多少異なっている場合があります。以前のバージョンの Cognos で作成されたレポートの大半は、これらの相違による影響を受けません。ただし、少数の既存のレポートでは小さな変更が必要になることもあります。

Cognos Analytics 11.0 にアップグレードした後に Microsoft Internet Explorer Web ブラウザーを使用する場合は、ブラウザーの設定の変更が必要になることがあります。以前、Cognos 10.2.x を Internet Explorer ブラウザーで使用していたときには、「ページ レイアウト エラーから互換表示で自動的に回復」オプションを有効にするか、Web サイトを「互換表示設定」に追加するかのいずれかにする必要がありました。Cognos Analytics 11.0 は標準モードの HTML を使用するため、互換モードを有効にするよう設定を変更して、キャッシングに伴う問題を回避する必要があります。標準モードの HTML への移行を容易にするため、IBM Cognos Query Studio および IBM Cognos Analysis Studio など、現在でもその設定変更が必要な既存のコンポーネントは、メタ・タグを使用して自動的に互換モードに切り替わるようになっています。

詳しくは、「Cognos Analytics conversion to Standards Mode」を参照してください。

コンパニオン・アプリケーションを開く

IBM Cognos Analytics ユーザー・インターフェースでコンパニオン・アプリケーションにアクセスできる場合があります。

このタスクについて

以下のアプリケーションにアクセスできますが、必要な権限があること、およびアプリケーションがインストール時に有効にされたことが条件です。

- Cognos Analysis Studio
- Cognos Query Studio
- Cognos Event Studio
- Cognos Workspace
- ドリルスルー定義
- 個人用受信トレイ
- 個人用監視アイテム
- ジョブの新規作成 (Create new jobs)

次のアプリケーションは個別にインストールされます。これらを表示するためには、IBM Cognos Analytics のインストール時にカスタム・インストール・オプションが選択されていて、適切な権限がなければなりません。

- IBM Cognos PowerPlay
- IBM Cognos Planning

手順

1. 「個人用受信トレイ」および「個人用監視アイテム」を表示するには、「ようこそ」ポータルで自分のユーザー名をタップします。
2. 他のコンパニオン・アプリケーションをすべて表示するには、「ようこそ」ポータルのナビゲーション・バーで、 をタップし、次に をタップします。
3. 目的のコンパニオン・アプリケーションをタップします。

付録. 本ガイドについて

このドキュメントは IBM Cognos Analytics の使用にあたって参照してください。Cognos Analytics は、レポート作成、モデリング、分析、ダッシュボード、ストーリー、およびイベント管理を統合したものなので、組織のデータを理解してビジネス上の意思決定を効果的に行うことができます。

翻訳されたすべての資料を含む、製品資料を Web で検索するには、IBM Knowledge Center (http://www.ibm.com/support/knowledgecenter) にアクセスしてください。

ユーザー補助機能

ユーザー補助機能は、動作が制限されている方、視力の限られた方など、身体に障害を持つ方々に IT 製品を快適にご使用いただけるように支援する機能です。Cognos Analytics のユーザー補助機能について詳しくは、「*Cognos Analytics Accessibility Guide*」を参照してください。

将来の見通しに関する記述

このドキュメントには製品の現在の機能が記載されています。現在利用できない項目への言及が含まれる場合もありますが、将来的に使用可能になることを示唆するものではありません。このような言及は、なんらかの資料、規約、または機能を提供するという誓約、保証、または法的義務ではありません。フィーチャーや機能の開発、公開、およびその時期に関しては、引き続き IBM が単独裁量権を有します。

サンプルに関する特記事項

Sample Outdoors 社、Great Outdoors 社、GO 販売、Sample Outdoors または Great Outdoors の名称のすべてのバリエーション、および Planning サンプルは、IBM および IBM のお客様向けのサンプル・アプリケーションを開発するために使用されるサンプル・データにより、架空のビジネス活動が描出されています。これらの架空データには、販売取引、商品流通、財務、および人事のサンプル・データが含まれます。実在する名称、住所、連絡先電話番号、取引額とは一切関係がありません。また、サンプル・ファイルの中には、手動またはコンピューターで生成された架空のデータ、学術的ソースまたは公共のソースを基に編集された実際のデータ、版権所有者の許可を得て使われているデータなどが、サンプル・アプリケーションを開発するためのサンプル・データとして使用されている場合もあります。参照される製品名は、それぞれの所有者の商標である可能性があります。許可なく複製することは禁止されています。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

［ア行］

アップロードされたファイル 11, 12
エージェント・ビュー 19
エントリー
　権限の設定 9
　非表示 24
エントリーの選択 5
エントリーの非表示 24

［カ行］

書き込み権限 7
管理
　レポート 17
機能
　権限の表示 10
基本設定 40
　自分の機能の表示 10
権限
　書き込む 7
　実行 7
　種類 9
　セット (set) 9
　通過 7
　表示 10
　ポリシー設定 7
　読み取り 7
個人設定
　基本設定 40
個人用コンテンツ 17
コピーまたは移動
　リンクへの影響 23

［サ行］

サンプル 6
資格情報
　更新 41
資格情報信頼できるユーザーの許可
　管理 41
実行権限 7
ジョブ
　スケジューリング 35
　ステップ 35
スケジューリング 33
スケジューリング (続き)
　レポート 33
スケジュール 40
　ジョブ 35
　複数のエントリー 35
製品説明 1
製品の学習 6
整理
　ポータルのエントリー 17
セキュリティー
　グループと役割 10
　権限 7
ソース
　アップロードされたファイル 11
　データ 11
　データ・ セット 11
　データ・モジュール 11
　パッケージ 11

［タ行］

対話式ビューアー 17
チーム・コンテンツ 17
通過
　権限 7
通知 39
データ
　ソース 11
データ・サーバーの資格情報管理
　保存された資格情報の表示 42
データ・サーバーの資格情報の管理 42
データ・セット 11, 13
データ・モジュール 11
デフォルトのレポート形式の設定 40
統合
　他の IBM Cognos 製品、IBM Cognos Analytics 45
登録 20, 40

［ナ行］

ナビゲーションのヒント 5

［ハ行］

始めに、概要 1
パッケージ 11
ファイル
　アップロード 12
フォルダーの追加 5

プロンプト
キャッシュ・データ 35
ポリシー設定権限 7

［ヤ行］

読み取りアクセス権限 7

［ラ行］

リフレッシュ
キャッシュ・データ 35
リンク
コピーまたは移動操作 23
レポート
管理 17
個人別設定 19
スケジューリング 33
レポートのバージョン
アーカイブの表示 19
バージョンの表示 19
バージョンの保存 19
レポートのバージョン (続き)
保存された出力 19
保存された出力の削除 19
レポートへの登録 20
レポート・ビュー 19

A

Analysis Studio 48

I

IBM Cognos Software Development Kit 46

Q

Query Studio 48

W

Workspace 48